

みんなおいで～もちつき交流会



昔ながらの杵つき!!
お腹いっぱい
楽しもう!!
11月20日(月)
11:00～支部会館

けんせつ 清瀬久留米

発行所
東京土建一般労働組合
清瀬久留米支部機関紙
〒203-0054 東久留米市中央町5-10-17
TEL 042-473-8751
FAX 042-473-8753
発行者 尾 芦 富 雄
編集者 砂 川 恵



秋の拡大運動

目標届かずとも 仲間と共に突き進む

9月・10月に集中してとりくまれた「仲間を増やそう拡大月間」を終え、支部は目標とした61名に対して32名の加入という結果になりました。目標に届かずとも、最後まで行動し、声掛けをしてくれた仲間の皆さんのご協力に感謝し、また、新しく加入した皆さんと共に、新たな運動を繋げていきます。



拡大打上げ式は全分会の参加で「みんなの和」が出来上がった。締めは川村副委員長の発声で団結ガンパロー。右下：月間の目標達成一位の青空分会長谷川分会長と二位の松竹分会宮崎分会長。中央は五十嵐組織部長

秋の拡大を終えて

簡単に一言。6・7・8月で秋の飛躍の土台をつくり、第2ラウンド後半に突入しましたが、各分会対象者が上がってこない。大変



苦労しました。

社保未加入問題、あるいは協会けんぽへの移行がひとつの問題として挙げられます。「国土交通省通知」にあるとおり、土建国保と厚生年金のセット加入を

苦勞しました。支部の仲間のみなさん、秋の拡大月間お疲れ様でした。年の最後に第3ラウンド、11月・12月で、運動の仕上げとなります。宜しくお願いします。

組織部長 五十嵐留夫

風船を手に笑顔で飛び跳ねる子ども達

きよせ市民まつり

秋の晴天の一日であった。朝8時頃に会場に着いた。車から荷物を下ろして開店の準備を始めた。各分会の担当者が集まってきて手早く準備が終わってしま

はいけないとの申し合わせだそう。

開会すると、大勢の人が集まってきた。この日用意したのは宣伝用のティッシュ1000個、チラシ100枚、オリジナルの風船が600個。住宅相談窓口も開設し、2名が相談に来てくれた。

ティッシュは昼すぎには全部配り終えた。風船は3時頃にはガスも無くなり、終わりになった。子どもたちは「もうないの?」とたずねてくる。そう言われたら、何とかしようと、ボンベに僅かに残ったガスを、最後まで慎重に使いきった。有料だと思っただけ、子どもが風船に気づかないように、遠巻きに歩いていく親御



松竹分会 天野俊昭

着です。デッキに出ると、テレビでよく見る風景が目に入り、感激しました。一周した後「天望回廊」まで更になると、また視界が広がります。目の前には富士山、遠くには筑波山や男体山まで広がり、素晴らしい景色を満喫しました。

天望回廊からの素晴らしい景色

東京スカイツリーと下町満喫ツアー

主婦の会では、毎年恒例の拡大バスツアーを10月4日、37名の参加で行いました。バスの中では、各分会の会員拡大の進捗状況の報告、決意表明を力強く行いました。



スカイツリーに到着してまずは記念撮影。専用エレベーターに乗り込むと、「天望デッキ」までたったの52秒で到着した。



北浅分会 五味里子

帰りのバスの中では、空くじなしのビンゴゲームを楽しみながら、天候にも恵まれ、楽しい一日でした。

優れた技術を次の世代へ

バランスストンボを作る



10月16日(日)に、支部会館でシニア友の会の皆さんから技術を学ぶ取り組みを行いました。全体で25人が参加しました。松竹分会の岸實さんを講師に、竹を使っ

た「バランスストンボ」を制作しました。あらかじめ、岸さんが加工してくださった

る作業が一番神経を使いました。力加減を間違えるとくちばしが折れてしまうので、シニアの役員さんサポートしてもらいながら

間も、この日は無言で制作に没頭していました。重さの微調整を行い、うまくバランスが取れたときはとても感動しました。制



慎重に行いました。

普段はおし

やべりな後継

者対策部の仲

制作の後は参加者全員で

交流を行い、親睦を深めました。今回の取り組みを次

につなげていけるよう継続したいと思えます。

三葉分会 川村裕也

地域の減災・防災力を高める



10月16日(日)朝から東久留米市内にサイレンが響きます。滝山公園をメイン会場に総合防災訓練が行われました。支部からは18名が参加しました。会場では重機を使った瓦礫除去訓練や、住宅やビルに見立てた小屋の消火訓練、人形を使った救助訓練が行われました。会場を

囲むように、市内の各団体のテントが張られ、建設組合・医師会・助産師の会・獣医師会・田無警察署・自衛隊など、様々な観点での減災・防災をアピールする展示がありました。

「東久留米に住んでいるけど参加は初めて」という支部の仲間がほとんどで、皆熱心に見学していました。若い仲間は運営陣に同級生を発見し、盛り上がる場面もありました。地元の繋がりは、このような場所においても重要だと感じました。

この日は市内の各自治会の防災訓練も数か所で同時に行われ、滝山公園に隣接する西中学校では避難所開設の訓練が行われていました。大がかりな訓練に、東久留米市の防災意識の高さを感じました。

しかし、全体的に高齢の方の参加が多いように感じます。地域の減災・防災力を高めていく為には、全世代の協力が必要です。東京土建は「チームNAMAZU」のとりくみの一環として、自治体と協力し、子育て世代の仲間が積極的に参加できる環境づくりを進めていきます。

仕事対策部書記 砂川恵



10・27東久留米市民大集会&キラキラパレード

公立保育園全廃に怒り

1年半ぶりにキラキラパレード(夜間デモ)開催という事で、支部の仲間も万灯作りに力をいれました。大集会は年に2回開催。毎回市内の様々な団体から運動の訴えがあります。

今回は、東久留米が抱える大問題である、公立保育園全廃について、保護者



の方から切実な発言がありました。民営化された「さいわい保育園」、今後の対応についても引き続き保護者の頭を悩ませています。保育園に残るか、転園するか、バラバラになってしまってお友達・兄弟、用水路で分断された園舎と園庭。本当に子どもの事を考えた運営になっているのか、疑問が尽きません。また、東久留米市が今年、公立保育園全廃を打ちだし、その第一号となった「し

実行委員会

は、従事者を中心に少人数の交渉団を結成して挑んだ。支部では前川副委員長が竹中工務店との交渉に参加。交渉団が少人数であり、実態に基づいて掘り下げた内容で交渉することができ、担当者から一定の本音を引き出すことができました。大幅賃金アップを勝ち取るためにはやはり仲間の意識を高め、闘うしかない。賃金対策部書記 本田将

右…前川副委員長が参加した竹中工務店との交渉の様子
上…日本教育会館で行われた交渉にむかう前の総決起集会



第64回大手企業交渉 鴻池組

賃上げ程遠い状況に愕然

今回で4回目となる鴻池組は、支部から3人、関東地協から5人、全体で30人程、相手側は昨年春には6人の参加だったが、今年は4人。全員が課長クラスで、役員レベルはいなかった。交渉では鴻池組が事前に行った賃金アンケートについて、設計労務単価の上昇が全く反映されず、相変わらずの低単価が横行していることに、関東地協として強い憤りを持って

訴えた。中には労基法上の最低賃金を下回るケースもあった。元請として1次業者に、2次以降の適正賃金の指導を行う様訴えた。社会保険の加入については、2次以降を含めてほぼ100%が加入となっていない。元請として指導するならばそれも合わせて徹底しなくてはならないが、実際はそこまでは把握されていない。

大手ゼネコンが空前の利益を上げ、鴻池組も大幅増収・増益のなか、現場労働者だけが恩恵を受けられず、カヤの外に置かれていく。この現実がこれまでの交渉と比べ最もはつきりした交渉となった。また、スーパーゼネコンを中心とした7社に対して

湧水

今年も台風が多くありました。異常気象。温暖化の進行で台風は増えていくそうです。便利なもので溢れる社会と地球の温暖化。私達が自然の環境を壊しているのでは。なぜ温暖化になるのかを、一人ひとりが考えて、でき



地球温暖化 みんなで考えよう

うる対策はすべてやるよう努力する。現実的にできる事を模索していく。みんなで、地球全体が取り組まなければ、私達の生活はますます厳しいものになると思いますが。子や、孫達が住みにくい世界になってはいけません。今からでも出来る事をがんばりましょう。北浅分会 安澤利昌